

# 英語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
英語学概論	英語統語論入門Ⅰ	2	島 越郎	3	水	4
英語学概論	英語統語論入門Ⅱ	2	島 越郎	4	水	4
英語学基礎講読	英語学の基本概念Ⅰ	2	金子義明	3	火	4
英語学基礎講読	英語学の基本概念Ⅱ	2	金子義明	4	火	4
英語学各論	統語論と意味論のインターフェイスにおける諸問題	2	高橋 将一	集中(5)		
英語解析学各論	形態論入門	2	島 越郎	5	金	1
英語学講読	意味論入門Ⅰ	2	島 越郎	5	火	2
英語学講読	意味論入門Ⅱ	2	島 越郎	6	火	2
英語学演習	英語統語論：極小主義によるアプローチⅠ	2	金子 義明	5	金	2
英語学演習	英語統語論：極小主義によるアプローチⅡ	2	金子 義明	6	金	2
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅰ	2	金子 義明 島 越郎	7	水	2
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	金子 義明 島 越郎	8	水	2

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB33403, 科目ナンバリング：LHM-LIN201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英語統語論入門 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Syntax I

3. 授業の目的と概要：

英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is an introduction to the formal analysis of syntactic structures of English within a framework of Generative Grammar. We will also see the sound system and historical change of English.

5. 学習の到達目標：

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand three aspects of English: basic concepts of syntax, the sound system and the history and development.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：導入
- 第2回：英語の普遍性と特殊性
- 第3回：現代言語学における3つの分野：音韻論 意味論 統語論
- 第4回：英語音声の基本的特徴
- 第5回：英語の綴り字と発音
- 第6回：英語のリズムとイントネーション
- 第7回：文をつくる規則：句構造規則
- 第8回：句構造規則と文法
- 第9回：構成素について
- 第10回：樹形図と構造関係
- 第11回：構造関係に基づく文法原理
- 第12回：文、樹形図、文法原理の関係
- 第13回：品詞と歴史的变化
- 第14回：語彙と意味の歴史的变化
- 第15回：まとめと期末試験

8. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

9. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

- 江川泰一郎著『英文法解説』金子書房
- 服部範子著『入門英語音声学』研究社
- 堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

10. 授業時間外学習：

- 講義内容の十分な復習に心がけること。
- 副読本の内容を計画的に自己学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB43403, 科目ナンバリング：LHM-LIN201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英語統語論入門 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Syntax II

3. 授業の目的と概要：

英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is a continuation of Introduction of English Syntax I, focusing on the formal analysis of syntactic structures of English within a framework of Generative Grammar. We will also see the sound system and historical change of English.

5. 学習の到達目標：

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand three aspects of English: basic concepts of syntax, the sound system and the history and development.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：単語の音声・意味情報を記載するレキシコン

第3回：音韻・意味素性、主要部、句について

第4回：動詞と目的語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第5回：動詞と修飾語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第6回：複文の構造（1）：補文標識の役割 小テスト1

第7回：複文の構造（2）：定形節と非定形節の違い

第8回：複文構造の歴史的变化

第9回：発音されない代名詞と歴史的变化

第10回：名詞句の構造と歴史的变化

第11回：句構造規則からXバー理論へ 小テスト2

第12回：Wh 疑問文における移動操作

第13回：Wh 疑問文の音韻的特徴と歴史的变化

第14回：英語とその他の言語に見られる Wh 疑問文の共通点・相違点

第15回：まとめと期末試験

8. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

9. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

江川泰一郎著『英文法解説』金子書房

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

10. 授業時間外学習：

講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：金子義明（教授）

講義コード：LB32401, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英語学の基本概念 I

2. Course Title (授業題目)：Fundamental Notions of English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：

英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な概念の理解をめざす。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read English texts with accuracy and understand the basic notions of English linguistics, through intensive reading of English texts on English linguistics.

5. 学習の到達目標：

- ①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく
- ②批判的英文読解法が身に付く

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will understand fundamental perspectives and basic notions of English linguistics and develop the ability to read research papers from critical viewpoints.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：語のクラス (1)：定義
- 第3回：語のクラス (2)：いくつかのやっかいな事例
- 第4回：語のクラスの境界と段階性
- 第5回：語のグループ化
- 第6回：動詞句 (1)：動詞句への2つのアプローチ
- 第7回：動詞句 (2)：動詞に対する補部の関係
- 第8回：動詞句 (3)：中間付加詞
- 第9回：動詞句 (4)：置き換え
- 第10回：動詞句 (5)：移動
- 第11回：動詞句 (6)：等位接続
- 第12回：節構造 (1)：累積助動詞
- 第13回：節構造 (2)：助動詞のない節
- 第14回：節構造 (3)：節構造再考
- 第15回：まとめとディスカッション

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：Bas Aarts and Liliane Hageman, "English Word Classes and Phrases," in The Handbook of English Linguistics, ed. by Bas Aarts and April McMahon, Blackwell (2006), pp. 118-145. プリント使用。

10. 授業時間外学習：

事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと (2時間)。授業後は、内容を確認し、参考書等を活用して問題点を解消しておくこと (2時間)。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：金子義明（教授）

講義コード：LB42402, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英語学の基本概念 II

2. Course Title (授業題目)：Fundamental Notions of English Linguistics II

3. 授業の目的と概要：

英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な概念の理解をめざす。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read English texts with accuracy and understand the basic notions of English linguistics, through intensive reading of English texts on English linguistics.

5. 学習の到達目標：

- ①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく
- ②批判的英文読解法が身に付く

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will understand fundamental perspectives and basic notions of English linguistics and develop the ability to read research papers from critical viewpoints.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：導入

第3回：等位接続 (1)：用語と範疇

第4回：等位接続 (2)：等位接続の統語特性

第5回：等位接続 (3)：等位接続項の語順

第6回：等位接続 (4)：主節の等位接続と従属節の等位接続

第7回：等位接続 (5)：分配的等位接続と合同等位接続

第8回：等位接続 (6)：非基本的等位接続

第9回：従属接続 (1)：統語範疇としての従属節と主節

第10回：従属接続 (2)：定形性

第12回：従属接続 (3)：関係節

第11回：従属接続 (4)：比較節と内容節

第13回：従属接続 (5)：定形従属節の分類

第14回：従属接続 (6)：非定形節

第15回：まとめとディスカッション

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：Rodney Huddleston and Geoffrey K. Pullum, "Coordination and Subordination," in The Handbook of English Linguistics, Blackwell, ed. by Bas Aarts and April McMahon (2006), pp. 198-219. プリント使用。

10. 授業時間外学習：

事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと（2時間）。授業後は、内容を確認し、参考書等を活用して問題点を解消しておくこと（2時間）。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：高橋 将一 (非常勤)

講義コード：LB98814, 科目ナンバリング：LHM-LIN301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：統語論と意味論のインターフェイスにおける諸問題
2. Course Title (授業題目)：Topics in the syntax-semantics interface
3. 授業の目的と概要：

言語の統語部門を研究するにあたり、過去の研究では様々なアプローチが使用されてきましたが、よく採用されるものとして、統語論と意味論のインターフェイスの観点から研究を行うアプローチがあります。本講義では、統語論と意味論のインターフェイスの観点から研究しない限り、発見できないかもしれない統語部門の特徴を明らかにできる可能性があるという点で、このアプローチが有益な研究方法であることを見ていきます。講義では、統語論、意味論及び、それらのインターフェイスに関わる諸問題を扱う論文について議論していきます。取り上げるテーマは、量化、移動、削除などを予定しています。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

To investigate properties of the syntactic component of language, a variety of approaches have been adopted in the past literature. One prevalent approach is to study how syntax works, particularly focusing on its interface with semantics. The aim of this course is to appreciate that this kind of approach is a useful research method in that it may give us an opportunity to reveal aspects of the syntactic component that might not be discovered otherwise. We do this by discussing papers that address relevant questions about syntax, semantics, and its interface. The topics that we will consider include quantification, movement, and ellipsis.

5. 学習の到達目標：

本講義の目標は、統語部門に関する理論の構築に対する統語論と意味論のインターフェイスに注目する研究アプローチの重要性や有用性を理解することにあります。また、本講義で取り上げた理論的概念や研究方法を学び、自分の研究に活かすための基礎を築くことも目標とします。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The goal of this course is to understand why the approach to syntax that focuses on the syntax-semantics interface is important and useful in developing a theory of syntax. Students are also expected to learn the theoretical notions and the research methods discussed in the course and form the foundations for applying them in their own research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 統語論と意味論のインターフェイスに関する研究の概観
2. Beghelli and Stowell (1997)を中心にした議論
3. Takahashi (2006)を中心にした議論
4. 量化詞及び、その特性に関する全体的な議論
5. Fox (1999)を中心にした議論
6. Takahashi and Hulsey (2009)を中心にした議論
7. A/A' -movementに関する全体的な議論
8. Takahashi and Fox (2005)を中心にした議論
9. Hartman (2011)を中心にした議論
10. 痕跡・変項に関する全体的な議論
11. Postal (1998)の第1章、第2章を中心にした議論
12. Ruys (2015)を中心にした議論
13. Takahashi (2019)を中心にした議論
14. 痕跡・音形を伴わない代名詞に関する全体的な議論
15. 全体的なまとめ

8. 成績評価方法：

1. リアクションペーパー
2. 課題
3. レポート

9. 教科書および参考書：

講義で扱う予定の論文の一覧です。

Beghelli, Filippo, and Tim Stowell. 1997. Distributivity and negation: The syntax of each and every. In *Ways of scope taking*, ed. by Anna Szabolcsi, 71-107. Dordrecht: Kluwer.

Fox, Danny. 1999. Reconstruction, binding theory, and the interpretation of chains. *Linguistic Inquiry* 30:157-196.

Hartman, Jeremy. 2011. The semantic unity of traces: Evidence from ellipsis parallelism. *Linguistic Inquiry* 42:367-388.

- Postal, Paul M. 1998. Three investigations of extraction. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Ruys, E. G. 2015. A minimalist condition on semantic reconstruction. *Linguistic Inquiry* 46:453-488.
- Takahashi, Shoichi. 2006. More than two quantifiers. *Natural Language Semantics* 14:57-101.
- Takahashi, Shoichi. 2019. Putative null pronominals in English: Causes and consequences. *Studia Linguistica* 73:650- 682.
- Takahashi, Shoichi, and Danny Fox. 2005. MaxElide and the re-binding problem. In *Proceedings of Semantics and Linguistic Theory 15*, ed. by Effi Georgala and Jonathan Howell, 223-240. Ithaca, New York: CLC Publications.
- Takahashi, Shoichi, and Sarah Hulsey. 2009. Wholesale late merger: Beyond the A/A' distinction. *Linguistic Inquiry* 40:387-426.

**1 0. 授業時間外学習 :**

リーディングリストにある論文を予習し、課題を行う。

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness :**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**1 2. その他 :**

科目名：英語解析学各論／ Analytical Study of English (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB55101, 科目ナンバリング：LHM-LIN302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：形態論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Morphology

3. 授業の目的と概要：

英語やその他の言語に見られる単語の基本的な形態現象を形態論の観点からどのように分析されるのかを解説する。今年度は、Level Ordering、語の構成素構造、複合語(Compounds)、Bracketing Paradoxes、等々の問題について考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course investigates the nature and structure of words within the framework of Generative Grammar.

Topics include the place of word formation in relation to syntactic phenomena, morphological processes, and the nature of the lexicon.

5. 学習の到達目標：

- 1) 単語の基本的な形態現象を理解する。
- 2) 形態論の基本概念を理解する。
- 3) 形態論の基本的分析法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand the basic concept of morphology and acquire basic analytical skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Siegel's Level Ordering Hypothesis
- 3) Problems with Level Ordering Hypothesis
- 4) Constituent Structure in Words
- 5) Williams's Righthand Head Rule
- 6) Problems with Righthand Head Rule
- 7) Two Types of Compounds
- 8) English Synthetic Compounds
- 9) Lexical Approach to Synthetic Compounds
- 10) Syntactic Approach to Synthetic Compounds
- 11) Bracketing Paradoxes
- 12) Williams's Lexical Relatedness
- 13) Sproat's Mapping Relatedness
- 14) Paradigmatic Word Formation
- 15) Summary

8. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

9. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

大石強著『形態論』開拓社

10. 授業時間外学習：

毎回の授業の復習をしっかりとやること

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：



科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB52206, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：意味論入門 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Semantics I

3. 授業の目的と概要：

自然言語の意味に関すると考えられる幾つかの現象を考察し、語学研究のために必要な意味論の基本的思考法を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course identifies some phenomena that could reasonably be included in the domain of semantic theory and then introduces basic tools for semantic analysis that seem promising as components of a framework for doing research in natural language.

5. 学習の到達目標：

- 1) 自然言語の意味現象を理解する。
- 2) 意味論の基本概念を理解する。
- 3) 意味論の基本的分析法が身につく。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will understand the basic concept of semantics and acquire basic analytical skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) The productivity of linguistic meaning
- 3) Semantic Universals
- 4) The significance of language: "aboutness" and representation
- 5) Entailment
- 6) Implicature (1)
- 7) Implicature (2)
- 8) Presupposition
- 9) Referential connections and anaphoric relations
- 10) Ambiguity
- 11) Synonymy
- 12) Contradiction
- 13) Anomaly
- 14) Appropriateness
- 15) Summary

8. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

9. 教科書および参考書：

開校時にプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

毎回の授業の復習をしっかりとやること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB62204, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：意味論入門 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Semantics II

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、自然言語の意味に関すると考えられる幾つかの現象を考察し、語学研究のために必要な意味論の基本的思考法を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course identifies some phenomena that could reasonably be included in the domain of semantic theory and then introduces basic tools for semantic analysis that seem promising as components of a framework for doing research in natural language.

5. 学習の到達目標：

- 1) 自然言語の意味現象を理解する。
- 2) 意味論の基本概念を理解する。
- 3) 意味論の基本的分析法が身につく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand the basic concept of semantics and acquire basic analytical skills.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1) Introduction
- 2) Expression meaning and speaker's meaning (1)
- 3) Expression meaning and speaker's meaning (2)
- 4) Expression meaning and speaker's meaning (3)
- 5) Sentential force and discourse dynamics (1)
- 6) Sentential force and discourse dynamics (2)
- 7) Sentential force and discourse dynamics (3)
- 8) Speech Acts (1) : the kinds of things we do with words
- 9) Speech Acts (2) : performative utterances
- 10) Speech Acts (3) : illocutionary acts as the subject of semantics
- 11) Speech Acts (4) : the performative hypothesis
- 12) Speech Acts (5) : grammar and illocutionary force
- 13) Conversational implicature (1)
- 14) Conversational implicature (2)
- 15) Conversational implicature (3)

8. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

9. 教科書および参考書：

開校時にプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

毎回の授業の復習をしっかりとやること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：前期に英語学講読「意味論入門 I」を履修していることが望ましい。

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：金子 義明（教授）

講義コード：LB55205, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英語統語論：極小主義によるアプローチ I

2. Course Title (授業題目)：English Syntax: A Minimalist Approach I

3. 授業の目的と概要：

生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an intensive introduction to how various English constructions are analyzed in terms of key notions of the framework of the Minimalist Program. This course mainly consists of oral report by students and discussion by all of the participants.

5. 学習の到達目標：

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand how to analyze English sentences by the methodology of current generative grammar, develop English language skills necessary to precisely understand a fairly large amount of English text, and develop presentational skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Grammar (1): Traditional Grammar (Oral report and discussion)

3 Grammar (2): Universal and Language Acquisition (Oral report and discussion)

4 Grammar (3): Parameters and Parameter Setting (Oral report and discussion)

5 Words (1): Lexical Categories and Functional Categories (Oral report and discussion)

6 Words (2): Determiners, Quantifiers, and Auxiliaries (Oral report and discussion)

7 Words (3): Categorization Problems and Grammatical Features (Oral report and discussion)

8 Structure (1): Phrases, Clauses, and Specifiers (Oral report and discussion)

9 Structure (2): Projections and Testing Structures (Oral report and discussion)

10 Structure (3): Structural Relations and Word Order (Oral Report and discussion)

11 Null Constituents (1): Null T in Indicative Clauses (Oral report and discussion)

12 Null Constituents (2): Null T and Null C in Finite Clauses (Oral report and discussion)

13 Null Constituents (3): Null C in Infinitive Clauses and Defective Clauses (Oral report and discussion)

14 Null Constituents (4): Null Heads in Nominals (Oral report and discussion)

15 まとめとディスカッション

8. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明（編）『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

10. 授業時間外学習：

授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。

授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：金子 義明（教授）

講義コード：LB65204, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英語統語論：極小主義によるアプローチⅡ

2. Course Title (授業題目)：English Syntax: A Minimalist Approach II

3. 授業の目的と概要：

生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an intensive introduction to how various English constructions are analyzed in terms of key notions of the framework of the Minimalist Program. This course mainly consists of oral report by students and discussion by all of the participants.

5. 学習の到達目標：

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand how to analyze English sentences by the methodology of current generative grammar, develop English language skills necessary to precisely understand a fairly large amount of English text, and develop presentational skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Head Movement (1): Auxiliary Inversion and CP Recursion (Oral report and discussion)

3 Head Movement (2): Null Operators and V-to-T Movement (Oral report and discussion)

4 Head Movement (3): Auxiliary Raising and Negation (Oral report and discussion)

5 Head Movement (4): Do-support(Oral Report and discussion)

6 Wh-Movement (1): Wh-Movement and Driving Wh-Movement (Oral report and discussion)

7 Wh-Movement (2): Subject Questions and Pied-Piping (Oral report and discussion)

8 Wh-Movement (3): Wh-Movement as Copying (Oral report and discussion)

9 Wh-Movement (4): Constraint on movement (Oral report and discussion)

10 A-bar Movement (1): Wh-exclamatives and Relative clauses (Oral report and discussion)

11 A-bar Movement (2): Two movement accounts of restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

12 A-bar Movement (3): Refining the Antecedent Raising analysis (Oral report and discussion)

13 A-bar Movement (4): Two sources for restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

14 A-bar Movement (5): Other A-bar Movement constructions (Oral report and discussion)

15 まとめとディスカッション

8. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明（編）『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

10. 授業時間外学習：

授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。

授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

semester：7, 単位数：2

担当教員：金子 義明 島 越郎 (教授 教授)

講義コード：LB53210, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目) : Topics in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学習の到達目標：

- ①英語学研究の最新動向を把握する
- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

semester：8, 単位数：2

担当教員：金子 義明 島 越郎 (教授 教授)

講義コード：LB63210, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 II

2. Course Title (授業題目)：Topics in English Linguistics II

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。

1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

2) 討論者がコメントを加える。

3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学習の到達目標：

①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

